



株式会社不動テトラ

2021年3月期第2四半期決算説明会

2020年11月30日

イベント概要

[企業名]	株式会社不動テトラ
[企業 ID]	1813
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2021 年 3 月期第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2020 年度 第 2 四半期
[日程]	2020 年 11 月 30 日
[ページ数]	44
[時間]	11:00 – 11:56 (合計：56 分、登壇：41 分、質疑応答：15 分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	19 名
[登壇者]	3 名 代表取締役社長 奥田 眞也 (以下、奥田) 取締役常務執行役員 ブロック環境事業本部長

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

中西 勉 (以下、中西)
取締役常務執行役員 管理本部長
北川 昌一 (以下、北川)

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



登壇

司会：定刻となりましたので、ただ今から、株式会社不動テトラ様の IR ミーティングを開催いたします。

最初に、会社からお迎えしている 3 名の方をご紹介します。まず、代表取締役社長の奥田眞也様です。

奥田：奥田でございます。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。取締役常務執行役員、ブロック環境事業本部長の中西勉様です。

中西：中西でございます。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。取締役常務執行役員、管理本部長の北川昌一様です。

北川：北川でございます。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。

本日は奥田社長様、および中西本部長様からご説明をいただくこととなっておりますが、ご説明が終わりましたら、質疑応答の時間をもうけていただいております。それでは、早速でございますが、奥田社長様、よろしくお願いいたします。

奥田：本日は、新型コロナウイルス感染症の拡大がなかなか収まらない中、私どもの第 2 四半期決算説明会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から皆様には当社の社業、ならびに IR 活動にご理解とご協力をいただいております。この場を借りて、御礼申し上げます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

(ご説明資料)

● **2021年3月期（連結） 第2四半期 決算説明会**

【目次】

- | | |
|-------|-----------------|
| 【第1部】 | 1. 全社業績 |
| | 2. セグメント別業績 |
| | 3. 主な完成工事と受注工事 |
| | 4. トピックス |
| 【第2部】 | 1. ブロック環境事業について |

(ご参考資料)

- **2021年3月期 第2四半期決算短信（連結）**
- **2021年3月期（連結） 第2四半期決算補足説明資料**
- **CSRレポート**

1

それでは、説明に入らせていただく前に、本日の配布させていただきました資料について、ご確認させていただきます。説明に用います決算説明会資料、それと参考資料としまして、2021年3月期の決算短信、それに伴います決算補足説明資料、そして、CSRレポートをお手元に配布させていただいております。ご確認をよろしくお願いいたします。

先ほど、司会の方からもご説明をいただきましたが、第2四半期の決算説明会ということで、昨年は特徴のある事業として、地盤改良事業についてご説明させていただきました。今期は2部としまして、担当の取締役の中西から、ブロック環境事業について少しご説明をさせていただきます。当社の3事業の特徴ある事業の一つですので、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

◆ 業績結果

(単位：億円)

	2020.3月期	2021.3月期	前期比
	第2四半期	第2四半期	
期初手持ち受注高	772	768	▲4
受注高	357	282	▲75
売上高	334	309	▲25
売上総利益 (率)	57.2 (17.1%)	52.5 (17.0%)	▲4.6 (▲0.1%)
販売費及び一般管理費	33.9	33.2	▲0.7
営業利益 (率)	23.3 (7.0%)	19.4 (6.3%)	▲3.9 (▲0.7%)
営業外収益	0.0	0.1	0.1
経常利益	23.3	19.4	▲3.9
特別損益	0.0	▲0.4	▲0.5
法人税等	7.2	6.4	▲0.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	16.1	12.5	▲3.6

(受注高)
新規受注が振るわず、受注は減少し、282億円
(前年同四半期比20.9%減)

(売上高)
期初手持ち受注高が768億円と高水準な状況を
維持するも、減収となり、309億円
(前年同四半期比7.3%減)

(営業利益)
減収により減益となり、19.4億円
(前年同四半期比16.9%減)

(経常利益)
営業外収支は均衡し、営業利益と同じく、
19.4億円
(前年同四半期比16.7%減)

(親会社株主に帰属する四半期純利益)
特別損益事項も特筆するものなく、12.5億円
(前年同四半期比22.3%減)

2

それでは、決算内容についてご説明させていただきます。

第2クォーター、第2四半期の決算。受注高は282億、売上309億、営業利益19.4億、営業利益率で6.3%、純利益12.5億ということで、前期の結果に比べますと、それぞれ10%から20%程度の減収で、第2四半期終わっております。

後でご説明差し上げますが、昨期2020年3月期は、当社にとってもかなりの高いレベルの決算でありました。

今期は、スタート時点で新型コロナウイルスの影響をどこまで考慮するか、なかなか合理的に計画ができないということで、決算の計画の見込みを開示することを8月の第1四半期決算発表まで遅らせていただきました。コロナの影響を考慮しながら、スタートした今期になります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

受注・売上の5ヶ年推移

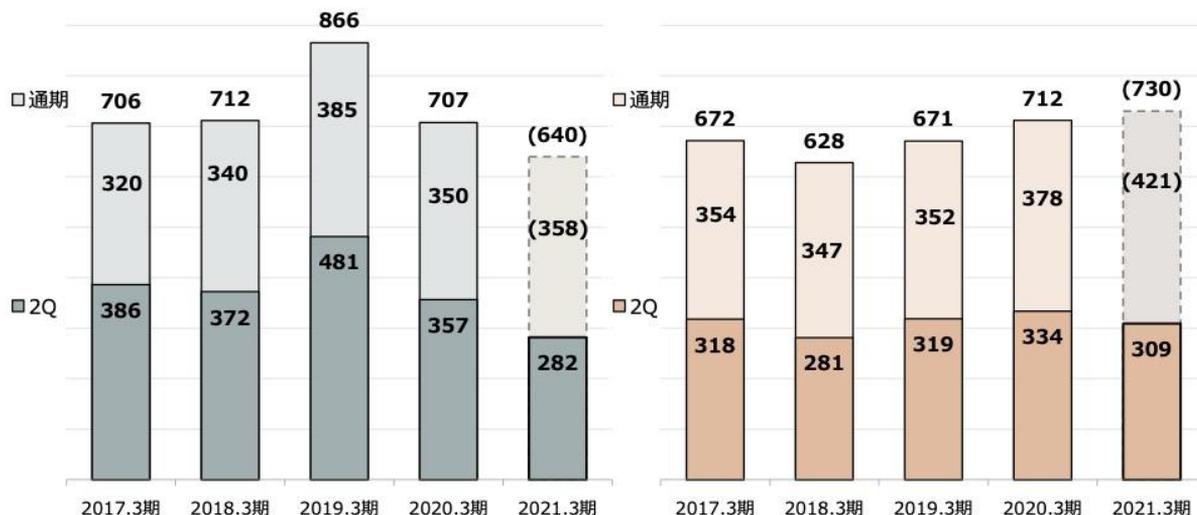
※見通しについては（ ）書きにしております



株式会社 不動テトラ

◆ 受注高（億円）

◆ 売上高（億円）



3

過去5年を少しグラフ化してお示ししています。

受注は大体700億を超える規模で推移しておりましたが、今期につきましては、少し厳しい状況で、640億を現状で通期では見通しをしております。上期も282億で、例年よりは若干、少ない結果となっています。

これは、実はコロナだけではなくて、後でご説明しますが、過去の受注もかなり高い水準で受注してきておりました、手持ちの受注高がかなり高いレベルにあるということで、当社の施工能力あるいは人員の配置能力から、少しもともと計画時点で、今期は少ない目標でスタートせざるを得なかった実情もございます。

売上につきましては、高水準の手持ちを維持しておりますので、年々、売上高が上がっておりまして、今期も通期としては730億を見通しております。上期の結果としましては、309億という結果でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



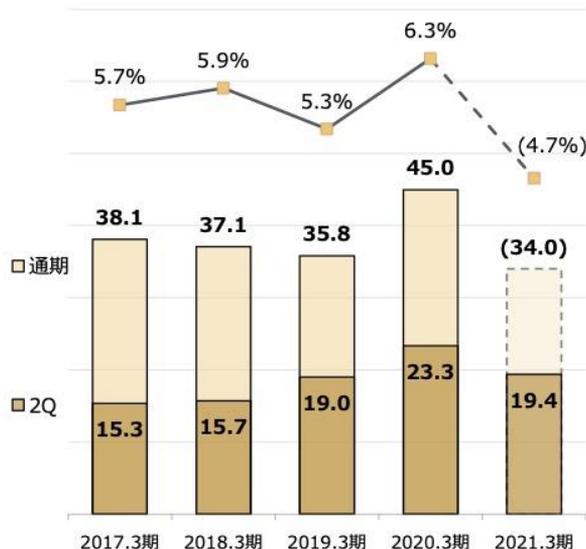
全社業績（連結）

※見通しについては（ ）書きにしております

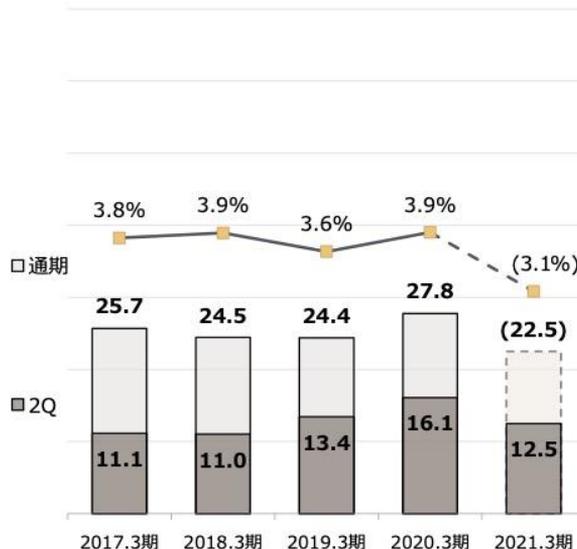


株式会社 不動産テトラ

◆ 営業利益（億円） 営業利益率（％）



◆ 親会社株主に帰属する当期純利益（億円）



4

また、利益面について過去5期を比較しております。

今期につきましては、上期については例年とそん色なく、逆に昨期はかなり良かったものですので、今期についても高い水準で利益は結果として出てきております。

ただ、通期につきましては、少しまだ新型コロナの影響等もございますので、34億で見通しをしております。

純利益につきましても、上期は比較的高い水準で推移してきておりますが、通期については、現状では22.5億で見通しを立てております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



セグメント別全社業績 2 Q



(単位：億円)

	2020年3月期	2021年3月期	前期比
	第2四半期	第2四半期	
受注高	357	282	▲75
土木事業	171	102	▲69
地盤改良事業	163	157	▲6
ブロック事業	20	28	8
売上高	334	309	▲24
土木事業	168	161	▲7
地盤改良事業	148	135	▲13
ブロック事業	18	14	▲4
売上総利益	57.2	52.5	▲4.6
(率)	(17.1%)	(17.0%)	(▲0.2%)
土木事業	17.5	19.2	1.7
(率)	(10.4%)	(11.9%)	(1.5%)
地盤改良事業	31.3	23.9	▲7.3
(率)	(21.1%)	(17.7%)	(▲3.4%)
ブロック事業	7.7	8.6	0.9
(率)	(42.7%)	(60.1%)	(17.4%)
販売費および一般管理費	33.9	33.2	▲0.7
営業利益	23.3	19.4	▲3.9
土木事業	7.4	9.2	1.9
地盤改良事業	13.7	6.7	▲7.0
ブロック事業	2.1	3.1	1.0

※全社計には3セグメント以外の数値及び連結調整額が含まれるため、3セグメントの合算値と全社計は一致しておりません。

(土木事業)

受注高は、期初手持ち工事が豊富なことから施工人員が逼迫し新規受注が振るわず102億円（前年同四半期比40.5%減）。売上高は161億円（前年同四半期比4.1%減）とわずかに減収となりました。営業利益は、減収となったもの手持ち工事の採算性改善が集中し、9億2千万円（前年同四半期比25.6%増）と増益となりました。

(地盤改良事業)

受注高は、新型コロナウイルス感染症による海外での受注の遅れを国内工事で補填し157億円（前年同四半期比3.8%減）と前年同四半期とほぼ同水準を保った。売上高は国内外で工事進捗遅れにより135億円（前年同四半期比8.6%減）と減収となりました。営業利益は、減収に加え工事の遅れによる保有船舶の稼働率悪化などにより6億7千万円（前年同四半期比50.9%減）と減益となりました。

(ブロック事業)

受注高は、主力の型枠賃貸が前年までの災害需要により順調に推移し28億円（前年同四半期比38.2%増）。売上高は、商品販売の減により14億円（前年同四半期比21.1%減）と減収となったものの、型枠賃貸は増収となったことで、営業利益は、3億1千万円（前年同四半期比49.1%増）の増益となりました。

セグメント別に少し付け加えさせていただきます。

土木事業、手持ちがかなり豊富ですので、受注活動が少し人員、あるいは施工能力の関係から、もともと計画も少し少ないのですが、結果的に少し新規受注がふるわない状況でございます。

ただ、地盤改良事業、実はこの事業が一番、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けております。やはり海外の比重も高いことと、民間プロジェクト、建築市場等の地盤改良事業を展開しておりますので、その辺で少し発注や着工の遅れが出ております。

ですので、もともと利益率の高い部署ですので、売上が少し前年よりも少なくなる、あるいは稼働状況が少し落ちますと、船舶の損料とかの負荷がかかりますので。営業利益的には、昨期に比べると約50%ぐらい、上期では減という結果が出ております。

ただ、土木事業、ブロック環境事業につきましては、あまり新型コロナウイルスの影響を受けず、どちらかといいますと公共事業を中心に展開しておる事業ですので、しっかりと上期答えを出してきております。営業利益も高かった前期よりも、それよりも少し増える結果で終わっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

全体的に、地盤事業が少し新型コロナの影響を受けたのに対し、土木、ブロックがそれをカバーするかたちで、結果的に 19.4 億で、先ほどお見せしたように、過去 5 年の中では比較的高いレベルで、上期の営業利益の結果が出ております。

セグメント別全社業績通期予想



株式会社 不動テトラ

(単位：億円)

	2020年3月期	2021年3月期	前期比
	通期実績	通期予想	
受注高	707	640	▲67
土木事業	368	290	▲78
地盤改良事業	305	310	5
ブロック事業	36	40	4
売上高	712	730	18
土木事業	342	370	28
地盤改良事業	332	320	▲12
ブロック事業	37	40	3
売上総利益	119.6		
(率)	(16.8%)		
土木事業	33.6		
(率)	(9.8%)		
地盤改良事業	67.9		
(率)	(20.4%)		
ブロック事業	16.6		
(率)	(45.0%)		
販売費および一般管理費	74.6		
営業利益	45.0	34.0	▲11.0
土木事業	13.0	11.0	▲2.0
地盤改良事業	32.0	18.5	▲13.5
ブロック事業	4.9	7.5	2.6

※全社計には3セグメント以外の数値及び連結調整額が含まれるため、3セグメントの合算値と全社計は一致していません。

通期の業績予想につきましては、

2020年8月6日に公表しました、2021年3月期連結業績予想に変更はありません。

新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、土木事業及びブロック事業への影響は軽微なものの、地盤改良事業での海外及び国内の民間工事の一部に影響が出る見込みです。

これらの影響を加味し、
受注高は640億円、売上高は730億円
営業利益は34億円、
経常利益は33億5千万円、
親会社株主に帰属する当期純利益は22.5億円
 を見込んでおります。

次にお示ししますのが、通期での事業の見通しでございます。

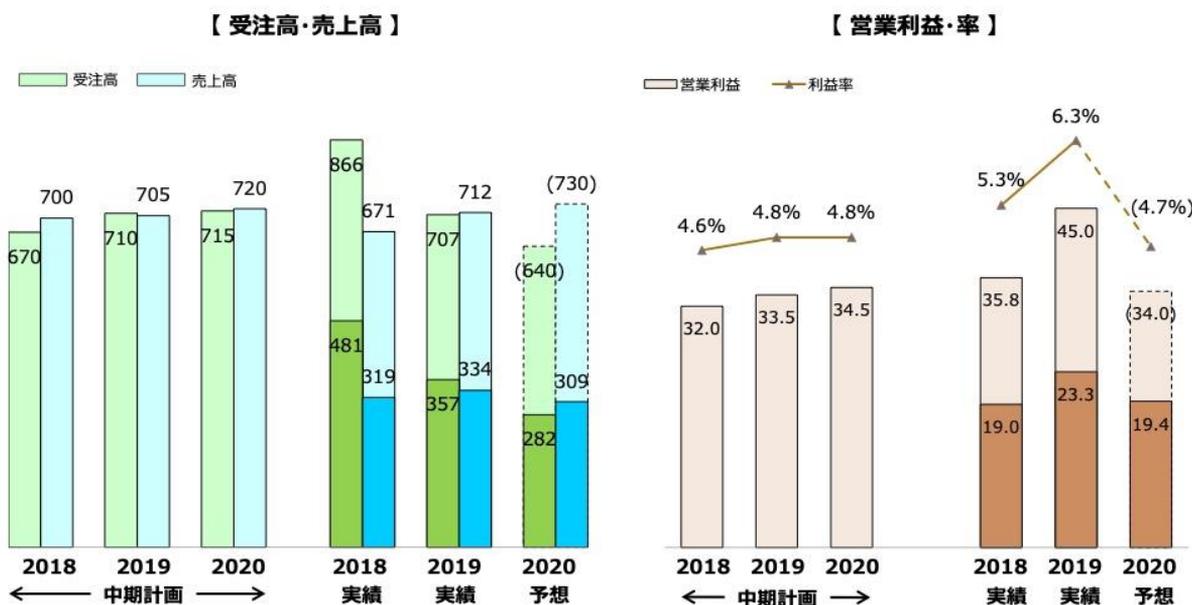
全体で、受注 640、売上 730、営業利益 34 億ということで、8 月 6 日に公表させていただきました 2021 年 3 月期業績予想に変更なく、現在見通しをしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



◆ 年度別数値目標 (単位：億円)



7

現中計3カ年、今期が最終年度ということで、今の中計の進捗状況、全体と各事業について少しご説明させていただきます。

中期計画に対し、実績としまして受注面、売上面ともに、ほぼ計画をクリアするかたちで、3カ年推移しております。

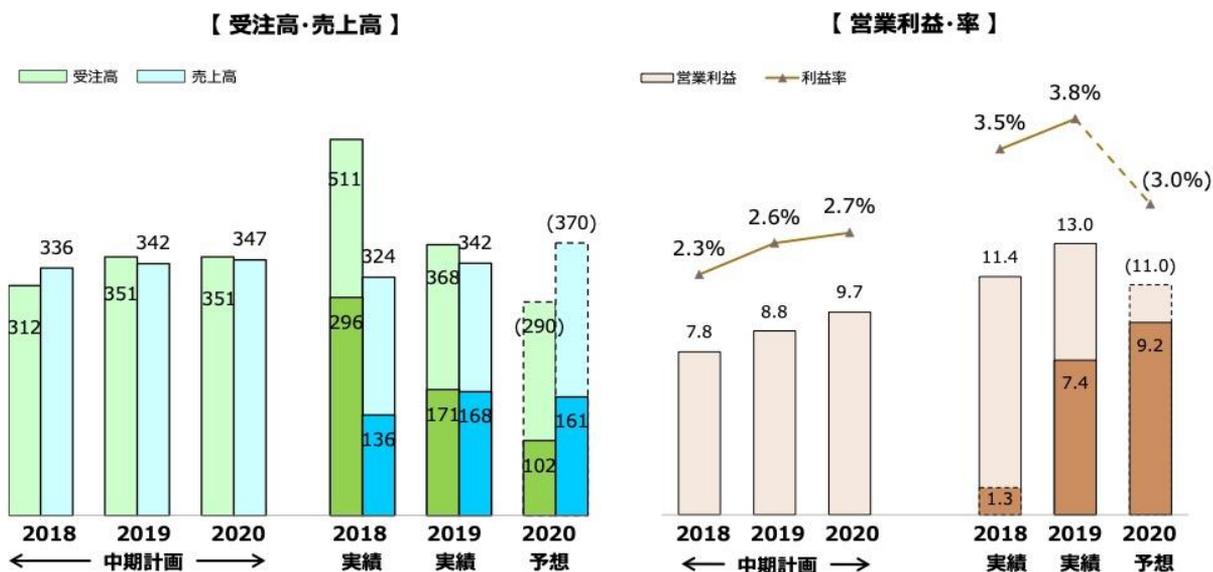
先ほどご説明しましたように、若干、今期受注が苦戦していますが、2018年にかなり大きな受注をしてきておりまして。こういった手持ちが豊富なことでの、なかなかチャレンジできない状況もあって、640億というのはコロナだけの影響ではないとご理解いただければと思います。

営業利益面、計画に対しまして、2018、2019と前中計2年は、かなり高い好成績を収めております。今期は、少し営業利益率的には下がりますが、ほぼ中計で立てている目標には、新型コロナの影響を考慮しても、なんとかそれに近い数字を、現状でも見通せるのではないかと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

◆ 年度別数値目標 (単位：億円)



各事業、簡単にご説明します。土木事業です。

今期、一番苦戦していますのが土木ですが、これも2018年に511億という大きな受注をして、高水準での手持ちで推移しておりますので、若干、その影響が出ていると考えております。

営業利益面ですが、中計の計画に対して過去2期過達できておりまして、今期も数値的には過達でいくだろうと。営業利益率が若干下がりますが、もう少し上乗せできればと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

◆ 年度別数値目標 (単位：億円)



地盤改良事業です。

受注、売上、ベース的には中計を若干下回りながらですけれども、ほぼ満足するかたちで進捗してきております。今期も受注に関しましては、海外の受注がなかなか見込めない中、なんとか国内でということで300を超える受注は見込めるのではないかと。

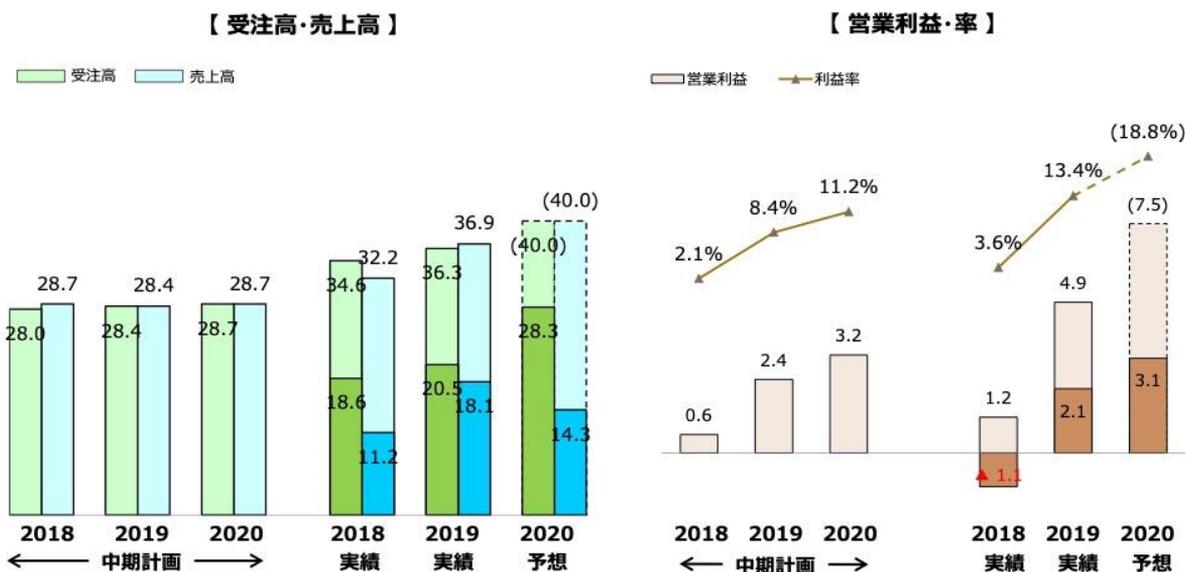
ただし利益面が、やはり売上面で、少しコロナの影響を受けて、後ろへずれてきているということで。船舶の稼働等も少し遅れ気味で、間接費の増加等もあって、営業利益は5.8%で、率的には少し計画より下がる見通しをしております。

ただ全体的に見ますと、中計3カ年では非常に高い営業利益率で、結果的にはトータルでは収めそうです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

◆ 年度別数値目標 （単位：億円）



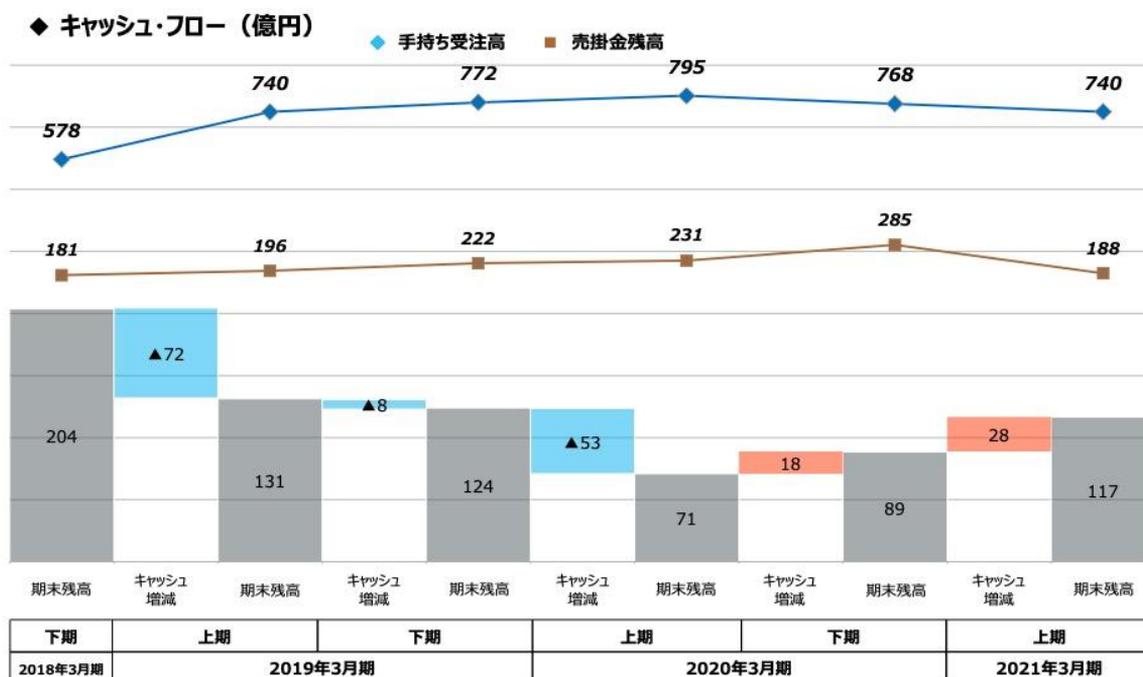
次に、ブロック環境事業です。

ブロック環境につきましては、前中計がなかなか苦戦していた中で、少し組織改革等、いろいろ施策等も打って、今中計は右肩上がりで、黒字化が進むだろうと計画をして、スタートしてまいりました。

結果的に2018年、2019年、そして2020年の上期も顕著に結果が出てきております。通期もかなり高い水準で、推移していくものと見通しをしております。これは災害復旧、あるいは大型のブロック事業が見通せたことで、大きく進捗したと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



次、キャッシュ・フローでございます。

キャッシュ・フローにつきましては、手持ちの受注高が随分と大きくなりましたので、2019、2020と当然、立替金等で売掛金の残高が増えていってございました。それで当然、期末残高が減る傾向にありましたが、現状、今期中間期においては売掛金の回収が進んでいること、大型工事が進捗してきていることで、少し期末残高が増えるかたちでの預貯金になっております。

年度末の見通しとしては、工事が進捗していきますので、まだ手持ちが豊富ですので、立替金も増えるだろうとは思っております。ただその中で、100億前後の預貯金では、期末残高では終わるのではないかと想定はしております。

サポート

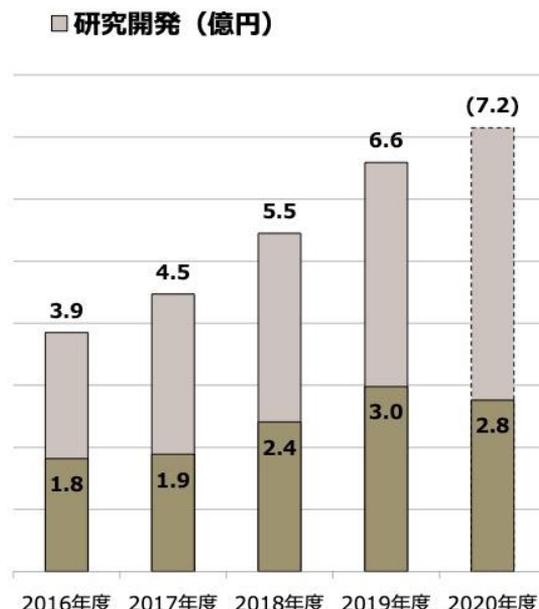
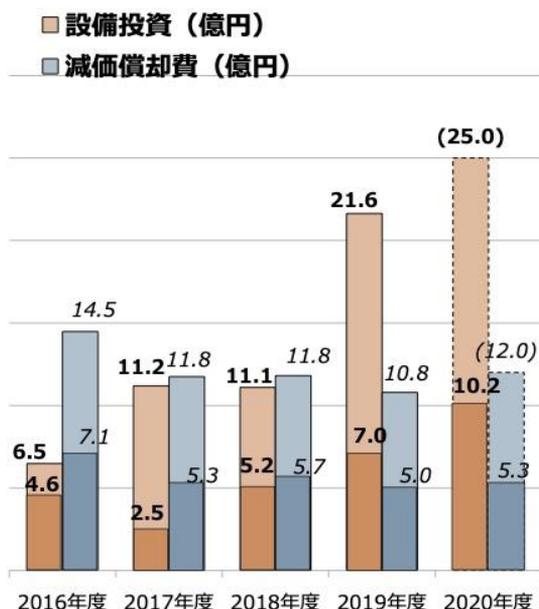
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

全社業績（連結）

※見通しについては（ ）書きにしております



株式会社 不動テトラ



12

次に、今中計の大きな施策として、事業展開あるいは採算性を向上させるための設備投資、あるいは研究開発を積極的に実施したいということでスタートしました。結果的に2019、2020、今期におきましても、高い水準で設備投資を実施してきております。

これは大きな意味では、地盤改良の大型船のリニューアル、それと土木が保有していますクレーン船のリニューアル、そして技術研究所の再整備ということで、土浦の研究所をブロック中心から3事業全てで、対応できる研究所への対応ということでの投資。こういった投資でしっかりと実施してきております。

また、研究開発も、やはり今後10年を見通して基盤整備の中計3カ年としてスタートしました。ですので先々期5.5、前期6.6、今期も見通しとして7.2億。現状で約3億ぐらいの研究開発に投資をしてきております。

しっかりと事業領域を拡大、あるいは生産性を向上させるための研究開発にも、費用を注ぎ込んできていることになります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



◆ 主な完成工事

工事名称	事業主体	施工場所
国道45号 千徳地区道路工事	国土交通省東北地方整備局	岩手県宮古市
(仮称)ハロウィンターナショナルスクール安比新築工事	株式会社岩手ホテルアンドリゾート (発注者:鹿島建設株式会社)	岩手県八幡平市
第二戸越幹線整備工事(下水道本管立坑整備)	東京都品川区	東京都品川区
姉崎火力発電所発電設備建設土工事	株式会社JERA (発注者:鹿島建設株式会社)	千葉県市原市
広域河川堀川改修工事(R1五条橋その3)	名古屋市長政土木局	愛知県名古屋
宇治系送水管路更新・耐震化工事(宇治市街地第3工区)	京都府	京都府宇治市
平成31年度瀬港(立神地区)防波堤(沖)災害復旧築造工事(第2次)	国土交通省九州地方整備局	鹿児島県奄美市

◆ 主な受注工事

工事名称	事業主体	施工場所
道央圏連絡道路江別市南6線改良工事	北海道開発局(発注者:岩島建設株式会社)	北海道江別市
仙台空港B滑走路地盤改良外工事	国土交通省東北地方整備局	宮城県取手市
双葉駅西側第一地区基盤整備(その1)工事	独立行政法人都市再生機構 (発注者:田中・青木あすなろ復旧・復興建設工事共同企業体)	福島県双葉郡双葉町
新本牧ふ頭建設工事(その1 5・外周護岸B-2地盤改良工)	横浜市港湾局	神奈川県横浜市
広域河川扇川・大高川改修工事(R2大高)	名古屋市長政土木局	愛知県名古屋
あま市新市庁舎整備工事	あま市(発注者:株式会社奥村組)	愛知県あま市
松浦・松浦発電所前間36k330m付近西九州道松浦4号橋下部工新設	松浦鉄道株式会社	長崎県松浦市
令和2年度指宿港海岸(湯の浜地区)突堤(大山崎)築造外1件工事	国土交通省九州地方整備局	鹿児島県指宿市

お手元の資料を見ていただければ、完成工事、受注工事、上期に終わったもの、受注した主なものを載せさせていただきます。

特筆すべきは、東北の震災復興事業の一環として整備が続いていました、国道45号。ここで千徳というところで大きな工事が完工しております。

あと地盤事業では、姉崎火力。これはJERAからのご発注ですけれども。ここの発電設備の整備に大変大きな工事をいただいて、これも完工しております。

受注工事では、仙台空港の滑走路の地盤改良工事、新本牧の外周護岸の地盤改良。こういった大型工事、あるいは、松浦鉄道さんからの鉄道工事などを受注してきております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

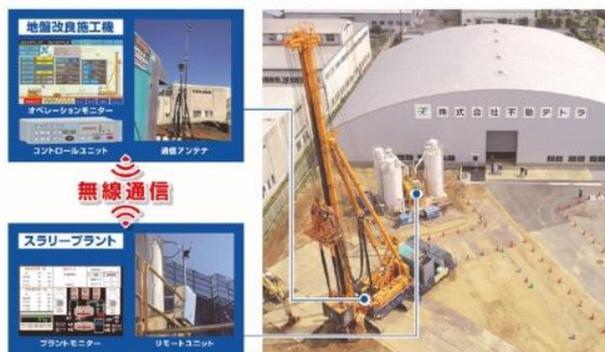
大型地盤改良機で初めての自動打設システム「GeoPilot®-AutoPile」

大型地盤改良機で初めてとなる自動打設システム「GeoPilot®-AutoPile」(ジオパイロット・オートパイル)を開発し、2020年6月にプレスリリースしました。今回対応したのは深層混合処理工法のCI-CMC工法であり、対応工法は順次拡大する予定です。攪拌軸の貫入・引抜速度、セメントスラリーの吐出量などが適切な値になるように、施工機を自動で制御します。少子高齢化が進む中、将来の担い手確保と生産性の向上を目指して、ICTを活用した技術開発を行っています。

特徴

- ① 操作の簡素化施工中にオペレータが行っていた15種類に及ぶ操作が、4回の画面タッチだけになります。
- ② 習熟期間の短縮3年程度かかっていたオペレータの習熟期間を約3分の1に短縮できます。
- ③ 確実な品質の提供施工誤差やオペレータの熟練度による品質の差異が少なくなります。
- ④ 安全性の向上各種センサーにより施工機の状態を監視し続け、注意喚起や適切

※ GeoPilot®は当社の自動化技術のシリーズ名です。



施工機操作の比較

項目	内容	操作	
		手動運転	GeoPilot®-AutoPile
貫入開始	開始信号の送信	開始アイコンタッチ	開始アイコンタッチ
	オーガモータの回転 攪拌軸の貫入	制御ボタンON 速度を確認しながら レバー操作	自動
セメントスラリー吐出	流量調整	規定値になるように ダイヤル調整	
貫入終了	攪拌軸の貫入停止	レバー中立操作	自動
	グラウトポンプの停止	制御ボタンOFF	
先端処理	攪拌軸の引上げ	速度を確認しながら レバー操作	自動
	攪拌軸の再貫入	速度を確認しながら レバー操作	
引抜き開始	開始信号の送信	開始アイコンタッチ	開始アイコンタッチ
	オーガモータの停止	制御ボタンOFF	自動
引抜き終了	攪拌軸の引上げ停止	レバー中立操作	
	オーガモータの停止	制御ボタンOFF	
施工終了	終了信号の送信	終了アイコンタッチ	終了アイコンタッチ

15

最後に少しトピックスについて、お話をさせていただきます。

まず、技術開発、ICT 施工への取組みということで。得意としております地盤改良分野で大型の地盤改良機の自動打設システムを開発して、プレスリリースをさせていただきました。

これは従来、ここで作業しますオペレーターが何回も操作をしながら、施工をしていくシステムを、こういった通信技術あるいは、新しい技術を用いることによって、スラリープラントやいろんなところを、オペレーターの操作が少ない操作で、施工を終わらせるシステムを開発してきております。

ここに一覧表にしておりますが、従来の手動運転ですと、これぐらいの作業をオペレーターが自分の席で、ボタンやレバーの操作をしておりました。これが今回の GeoPilot-AutoPile では、4回のタッチで施工が終わるということで。今まで熟練するオペレーターを育てるのに、3年から5年かかっていたものが、1年あるいは2年で、ほぼ同様の作業をこなせるようになっていただけるということでも、生産性の向上につながるだろうと。

それと、やはり安全面でも、いろんな意味での操作が自動になりますので、いろんなセンサーで施工機の状態を監視しながらの施工になります。適切な制御を行いながら、進んでいけないのではないかと。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

現在は、深層混合処理という工法の一つであります、当社の特許工法、CI-CMC 工法に適用ということで市場に送り出しておりますが、将来的には、他工法もこういったかたちでの自動打設に進んでいけるように現在、開発を進めております。

災害復旧工事例



株式会社 不動テトラ

台風被害の応急復旧に使命感を持って貢献

昨年10月に台風19号の高波等により被災した中日本高速道路（株）管轄、西湘パーキングエリア（下）の破損した既設構造物の撤去や消波ブロック等の災害復旧にあたり、要請に応じて迅速に対応し「西湘バイパス沿岸漁業に多大なる貢献をされた」と感謝状をいただきました。また台風21号がもたらした大雨により被災した東日本高速道路（株）管轄、常磐自動車道の法面1箇所、首都圏中央連絡自動車道の法面2箇所を、夜間の緊急要請にも対応して応急復旧させるとともに、首都圏高速道路網の復旧に貢献することができました。この災害応急復旧対応に「社会的使命である安全で安心な高速道路空間の提供に大きく貢献するものである」と感謝状を授与していただきました。

◇谷和原管内のり面災害応急復旧工事

事業主体：東日本高速道路株式会社 施工場所：茨城県つくば市、つくばみらい市、牛久市、稲敷市



首都圏中央連絡自動車道での被災状況



復旧工事完了後

◇西湘バイパス 西湘PA（下）災害応急復旧作業

事業主体：中日本高速道路株式会社 施工場所：神奈川県小田原市

16

続きまして、災害復旧です。

これは昨年10月に、台風19号でかなり関東も被害を受けました。その中で、特にここに載せさせていただきましたのは、中日本高速道路さんから西湘バイパスでの応急復旧と復旧工事。

そして、写真で載せておりますのは、東日本高速さんからのご依頼で対応いたしました、常磐自動車道と圏央道のり面の被害を復旧した工事でございます。夜間緊急出動して対応して、実際最後まで、復旧を対応した工事でございます。

これは両高速道路株式会社様から、こういった復旧対応について社会貢献に対して感謝状、表彰等をいただいております。こういった社会貢献にも参加しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



愛知ベース工業Gを子会社化

戸建て住宅や小規模～中規模の建築構造物基礎の地盤改良工事を得意とする愛知ベース工業グループとの株式譲渡契約締結により、持株会社として愛知ベース工業株式会社の株式を保有する株式会社ABホールディングスならびに株式会社BASE・ECO、日本土質試験センター株式会社（以下、「愛知ベース工業グループ」といいます。）の株式を100%取得し、グループ化しました。

愛知ベース工業グループの中核となる愛知ベース工業は、愛知県岡崎市に本社を置き、2000年の会社設立以来、愛知県を中心として主に戸建住宅基礎の地盤改良工事を手掛けています。

これにより、当社地盤改良事業は、戸建住宅や中小規模の建築構造物基礎における地盤改良市場へ参入し、事業領域の拡大を目指します。

建築市場	大規模地盤改良	中規模地盤改良	小規模地盤改良	戸建地盤改良
想定工事規模(1件あたり)	2000万円以上	400～2000万円	100～400万円	100万円以下
主な対象構造物	大型物流施設 大型オフィスビル 学校・病院・庁舎 など	マンション 老人ホーム、幼稚園 小型工場 など	アパート(2～3階) コンビニ 小型倉庫 など	戸建住宅 (30～40坪) 付帯設備 など
推定市場規模	300～400億円	500～800億円		500～600億円



建築基礎の地盤改良市場における両社の事業領域の関係

そしてもう一つ、事業領域の拡大ということで、10月1日に、愛知ベース工業グループを当社の子会社化しております。株式を100%取得いたしました。

これは、もともと当社の地盤改良事業、当然土木、公共事業をやっておるんですけども、建築市場というところでは、どうしても大規模工事、私どもでいいますと2,000万から、大きいところだと、例えば20億とか、そういった大きなプロジェクトへの対応がほとんどでございまして。

過去も、やっぱり小型の宅地、一戸建住宅、あるいは中小のアパート、そういった工事へなんとか進出できないかという模索もしてきておりました。ただ、当社が保有しておる機械の規模感、あるいはいろんな仕事の環境を考えると、なかなかこの小規模の仕事に踏み込んでいませんでした。

ただ、市場を見ますと、大規模な建築市場よりも小規模な建築市場が、はるかに大きな市場でございまして。そこで活躍されていた愛知ベース工業、岡崎市に本社がある会社でございましたが。この会社を子会社、グループ化することによって、彼らの持っている技術に当社の技術を補完していくことによって、愛知ベース工業の技術力を増す。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



「テトラポッド」に代表される消波根固ブロックを中心に
型枠賃貸や環境景観商品の販売を行うとともに、
水際線におけるさまざまな技術・設計サービスや、
景観と生態系を守る製品の開発・販売を行っています。

20

ブロック環境事業は、テトラポッドに代表される消波根固ブロックを中心に、型枠賃貸事業や環境景観商品の販売を行っております。

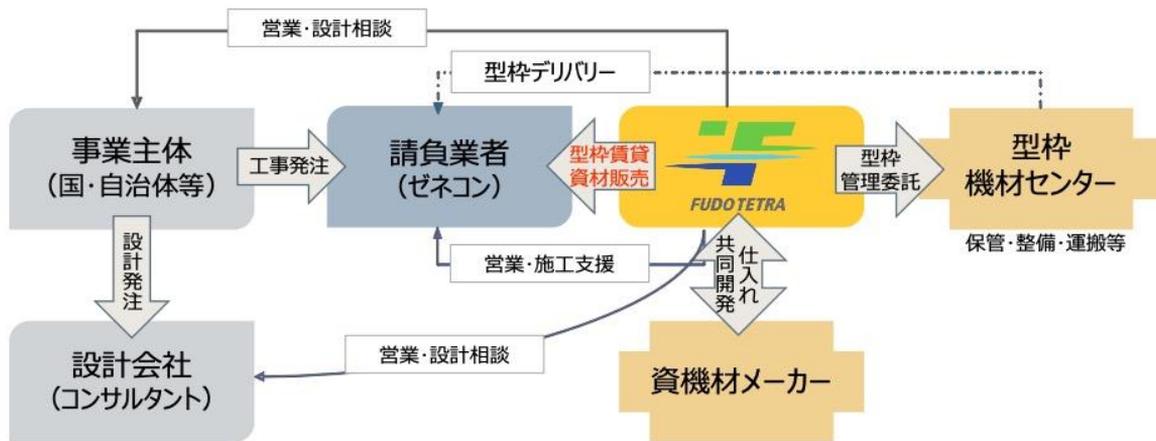
こちらの写真は、大型テトラポッドの型枠になります。そしてこちらにございますのは、代表的な環境景観商品のフィルターユニットになります。こういうものの販売を行っております。

そして、水際線におけるさまざまな技術・設計サービスや景観と生態系を守る製品の開発・販売を行っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1. **型枠賃貸事業**：消波根固ブロックの型枠リース
2. **環境景観商品販売事業**：各種資機材販売等



22

ここで、ブロック環境事業の商流をご説明申し上げたいと思います。

型枠賃貸事業ですけれども、これは消波根固ブロックの型枠をリースする、そのような事業でございます。型枠のリースです。

そして、環境景観商品販売事業は、各種資機材を販売していると、そのような事業になっております。

主な相手ですけれども、事業主体である国、自治体から請け負った請負業者、ゼネコンさんに対して型枠を提供する。あるいは資機材メーカーより、ゼネコンさんに対して資機材を提供すると、このような事業を行っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



- メインの型枠賃貸は、公共比率が高く、港湾・空港市場に強みがあります。
- テトラポッドが主力商品ですが、次世代型ブロックも徐々に売上を伸ばしています。

昨年度のブロック環境事業の売上でございます。

約 37 億円。型枠賃貸で約 21 億、環境景観商品の販売で 12 億。それと、連結子会社でありますブロック会社の三柱社 4 億円、合わせて 37 億ぐらいの売上でございます。

ここで型枠賃貸について着目しまして、型枠賃貸は、ほぼ公共事業が主体となっております。その予算区分別に、分野別に見てみますと、港湾・空港、これが約半数。漁港、河川・海岸について約 4 分の 1 という構成になっております。

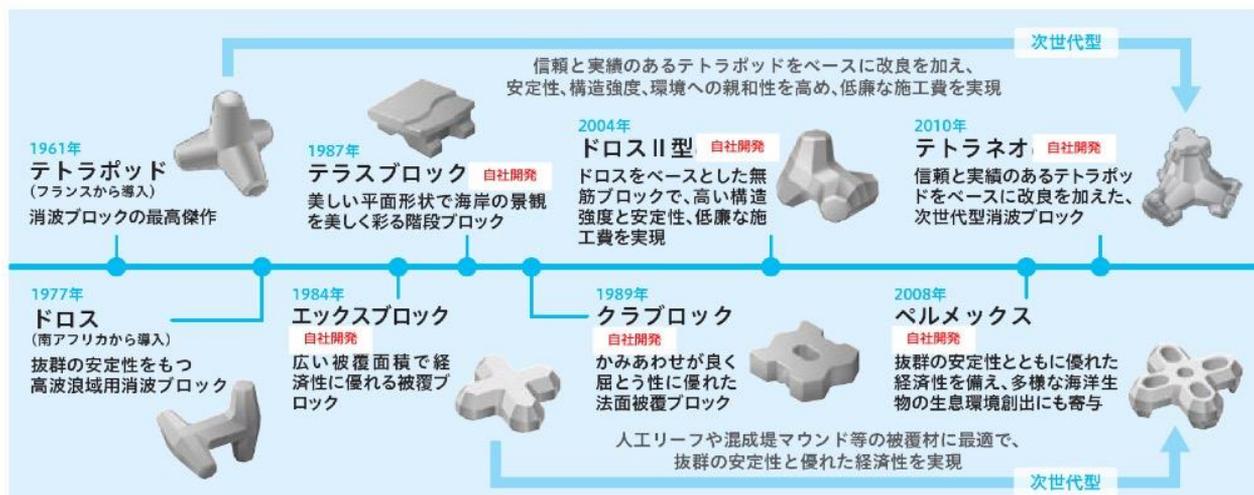
やはり主力製品はブロック、テトラポッドになっておりまして、次世代型ブロックも徐々に売上は伸ばしていただいております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

テトラポッドで培った技術と信頼をベースに幅広いニーズに対応

- 河川上流の山間部から、河川中流、下流、そして海に至る領域において、様々なニーズに対応した製品をラインナップしています。
- テトラポッドで培った信頼と実績をもとに、経済性や安定性に優れた次世代型ブロックも開発し、実績を増やしています。



ここで、不動テトラのブロックの歴史を振り返ってみたいと思います。

1961年、昭和36年になりますけれども、フランスからあまりにも有名なテトラポッド、これを導入しております。その後、昭和44年、1969年、先ほどちょっと出ましたけれども、土浦にあります当時の応用水理研究所、こちらにおいて、自社開発としてさまざまなブロックを開発しております。テトラポッドで培った信頼と実績をもとに、経済性や安定性に優れた次世代型ブロックを開発していったということで、次々に世の中に送り出しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

①型枠賃貸料：ブロック製作1個当り賃貸料 × 製作個数 (≠貸与期間)

ex. 20t型テトラポッド100個製作 … 33,510円/個 ×100個 = 3,351,000円 (定価)

②型枠賃貸期間：2～3ヶ月程度 (型枠貸与数=ブロック製作個数の1割を標準)

ex. ブロック100個製作⇒10組貸与 … 1組の型枠で10個製作完了で貸与期間は終了。

③ブロック製作箇所：工場ではなく、使用（設置）箇所の近隣ヤード

ブロック輸送上の問題やコストの関係から、使用箇所近隣に型枠を持ち込み、ブロックを製作。



25

ここで、型枠賃貸事業というものについて、少し説明させていただきます。

型枠賃貸事業は、ブロック製作1個当たりで、型枠のリース料をいただくというかたちになっております。

例えば、20トン型テトラポッドをつくるにあたって、1個当たり約3万3,000円程度の賃貸料をいただき、あとは製作個数に乗じたかたちで、賃貸料をいただいております。

型枠の賃貸期間、リース期間につきましては、大体1現場2月から3ヶ月程度と、そのようになっております。

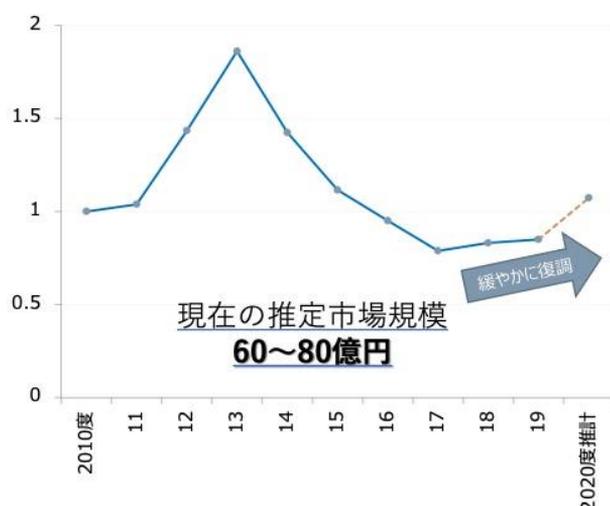
よく、ブロックを製品として、納めているのではないかということと言われる方がいらっしゃいますけれども。あくまでも、私どもはブロックの型枠をお貸しし、それを請け負ったゼネコンさんが施工をしていただくかたちになっており、工場ではなく使用箇所の近隣ヤードで、ブロックを製作しているかたちになっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

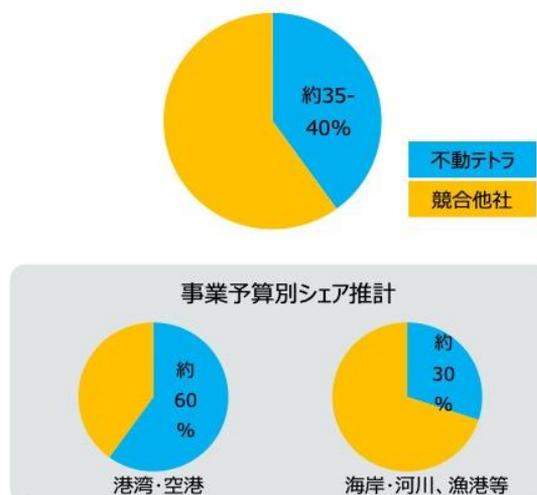
ブロック（型枠賃貸）市場とシェア

■ 型枠賃貸市場推移（指数） 2010年度 = 1.0



- ブロック（型枠）賃貸市場は、東北震災復興に伴い、2013年度がピークでした。
- 震災需要が一巡し、縮小傾向にあった市場は、国土強靱化政策や相次ぐ激甚災害需要により足元では緩やかな復調傾向となっています。

■ 不動テトラ（連結）シェア



- 当社（連結）のシェアは、約35-40%と業界首位
- 得意市場の「港湾」：圧倒的な実績を有するテトラボッドや高波浪用ブロック等でシェアを堅持します。
- 「海岸・河川等」市場：価格競争力の高い、新型ブロックを中心に、シェアアップ目指します。

2019年度データ 自社調べ 27

次に、ブロックの型枠賃貸市場をご説明したいと思います。

このグラフは、2010年度を1とした指数で市場を表しております。このブロック型枠賃貸市場は東北震災の後、急激な伸びを示しましたがけれども、2013年度がピークとなって、その後、震災需要が一巡しまして、このようなかたちで市場が縮小してまいりました。

しかしながら、国土強靱化、あるいは相次ぐ激甚災害等によって、緩やかに型枠賃貸の市場は復調傾向にあります。現在の推定市場規模は、約60億から大体80億ぐらいまでのところだろうと推定しております。

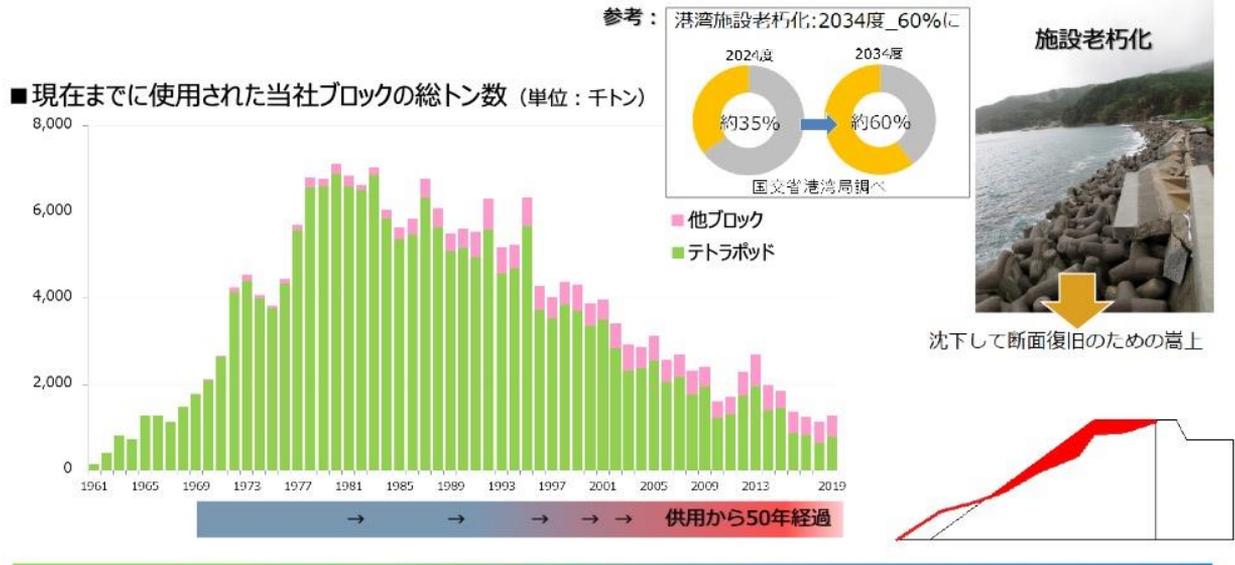
そういった中で、私どもの不動テトラのシェアでございますけれども、おおむね35%から40%程度のシェアということで、業界首位を保っていると考えております。

私ども港湾・空港という分野においては、非常に高いシェアを誇っているんですけれども、残念ながら海岸・河川、漁港等については、約30%程度のシェアと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

- テトラポッドを中心とした当社ブロックは高度経済成長期の急激なインフラ整備に伴い、1970年代から1990年代にかけ全国で大量に使用されてきました。
- 今後、供用開始から半世紀以上経過する施設も増加傾向にあり、施設機能維持・強化を目的とした一定量の老朽化対策（嵩上）需要が期待できます。



これからは、事業拡大に向けた取組みについて、少しご紹介します。

これは、現在までに使用された、当社ブロックの総トン数を表したグラフでございます。年度、それから、それぞれの年の総トン数量を表してございます。昭和 36 年、1961 年から現在まで、このようなかたちで世の中に送り出していると。

高度成長期の 1970 年代から 1990 年代にかけて、非常に大量にブロックを使用していただきました。おおむね年間 700 万トン。700 万トンといいますと、10 トン型テトラポッドで年間 70 万個ご使用いただいたと、このような状況でございます。

しかしながら、これが供用から 50 年以上経ってしまして。ブロック、コンクリート製品は大体 50 年と言われておりますので、今後、施設機能の維持・強化を目的とした一定量の老朽化対策、このような需要が見込まれております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ICT技術を活用したブロック維持管理手法の開発

- 消波工の調査・設計・施工・維持管理への3次元データの活用方法を研究、測量データからブロックの3Dモデルを再現する手法を開発しています。
- ドローン等のICT技術活用と3Dモデルの再現手法を組み合わせることで、消波工の維持管理の更なる高度化・効率化が期待できます。



29

そういった中で、私どもはこのICTを活用した、維持管理手法というものを開発いたしました。

ドローンを用いた測量データからブロックの3Dモデルを再現しまして、それによって、消波工の維持管理のさらなる高度化・効率化が期待できるようになっております。このような技術を開発いたしました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

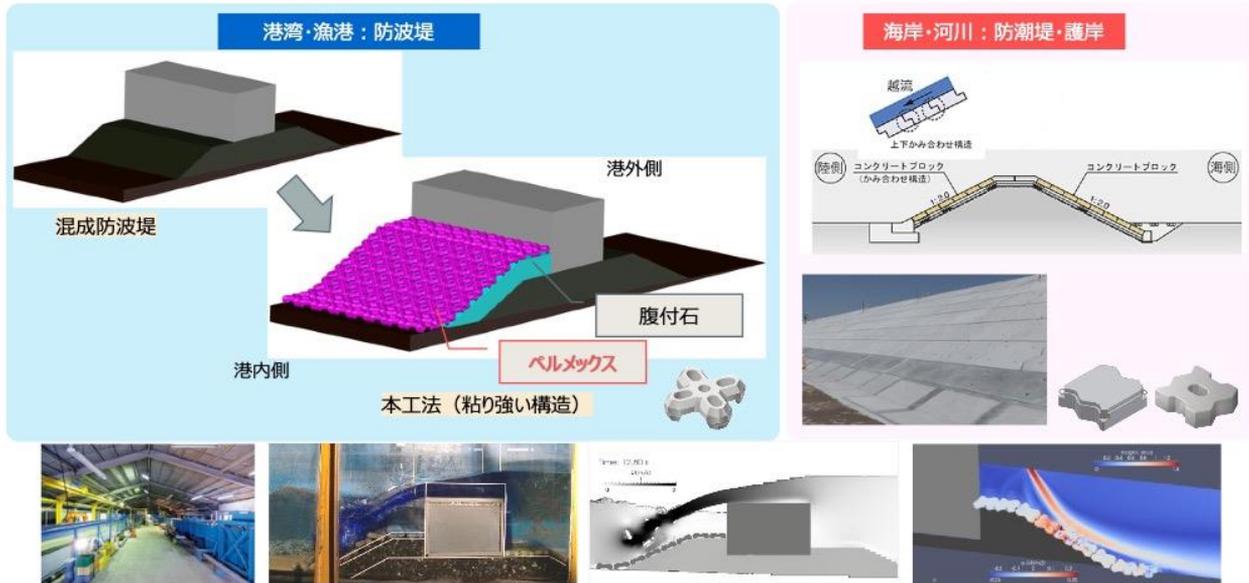
事業拡大に向けた取組 / 津波対策



株式会社 不動テトラ

東日本大震災の教訓を踏まえた巨大地震津波対策

- 東北震災の教訓を基に、ブロックを用いた津波対策工法の研究・開発を実施してきました。
- ハード対策：構造物の「粘り強い化」で津波被害の減少や、避難時間の確保が期待できます。



30

次に、津波の対策。これは東日本大震災を教訓とした津波の対策でございます。

これにつきましては、防波堤構造物の背後に腹付石や、これは消波ブロック、私どもでいえば、パールメックスという商品になるんですけども、それを配置することによって、構造物の粘り強い化、そのようなものができると。

そうすることによって、津波被害の減少や避難時間の確保が期待できるということで、防波堤構造物を今、日本各地の港湾、漁港ではこのようなかたちの機能強化を行っております。

これも土浦の研究所で、開発した技術になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



激甚化・頻発化・広域化する自然災害への対応



- 自然災害が頻発する中、防災・減災、国土強靱化に向けた対策が推進されています。
- ブロック技術は、施設の復旧のみならず、機能強化にも貢献します。



激甚化する自然災害

事例①：関西国際空港

2018年の台風21号により関空1期島内で高潮位の高波により広範囲、大規模な越波・浸水が発生、空港機能が長期間停止しました。



朝日新聞DIGITAL

防災機能強化対策事業により南側護岸には20t型、東側護岸には12t型テトラネオが大量に採用され、現在施工中となっています。



事例②：横浜市金沢区福浦・幸浦地区

2019年の台風15号により東京湾に面している金沢臨海部産業団地は、護岸が高波で崩壊し海水が流入。福浦・幸浦地区では約400社に浸水被害がありました。



護岸災害復旧工事により、4t型テトラポッドが大量採用され、現在施工中となっています。



次に、激甚化する自然災害への対応ということで、2例ほどご紹介したいと思います。

自然災害は激甚化・広域化しております。これにつきましては一昨年、台風21号。これは近畿地方に対して、甚大な被害をもたらした台風でございますけれども、ここにあるように関西国際空港が水没してしまったと。このような被害でございました。

それに対して、私どものテトラネオ、これが12トン型、20トン型、約1万6,000個を用いて防災機能の強化を今現在、行っていただいていると。そのような状況でございます。

こちらの写真は昨年の台風19号。これは、関東一円に甚大な被害をもたらした台風でございましたけれども、横浜における工業団地が水没してしまったという災害でございました。

これに対しまして、4トン型テトラポッド、約5万個を使用して現在、災害復旧を行っていることで、自然災害への対応を行っております。

サポート

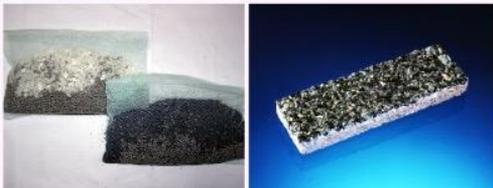
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ブルーカーボンに資する消波根固ブロック



- ブルーカーボンは、海洋生態系に蓄積される炭素であり、主に植物による炭素固定が対象となります。
- 消波根固ブロックは海藻類の藻場となり、炭素固定への貢献が期待できます。

■イオンカルチャー（藻場造成促進：イオン溶出ガラス材）



藻類の生長に必要なリン、珪素、鉄等をガラス化した素材で、中に含んだ成分を水中でイオンの状態で溶出します。
イオンカルチャーを使用することで、早期の藻場造成、効率的な附着珪藻の増殖など藻類の生長が促進されます。



■ブロックに着生した藻類



次は若干、話が変わるんですけども、環境共生のお話になります。

ブロックはこのようなかたちで、海藻類がブロックに繁茂していきます。そういった中で、やはりブルーカーボンに資する、炭素固定の貢献が期待できるということでございます。

そこで私どもは、こちらの写真にありますような、イオンカルチャーとって、藻類の成長に必要な養分をガラスの中に封じ込めて、水中でイオンの状態で溶出させていくと。このような技術を開発しております。これをブロックに付けて、なお一層海藻を生やし、ブルーカーボンに対応していくかたちで今、考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

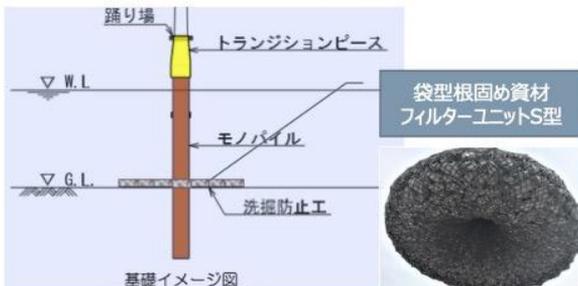
洋上風力発電 着底式構造物への洗掘防止対策工



- 近年、洋上風力発電の実用化に向けた動きが活発化しています。
- 袋型根固め資材（フィルターユニットS型）を主体に、着底式構造物への洗掘防止対策工への適用を目指します。



■ 当社 総合技術研究所での水理実験状況



■ 国内洋上風力発電施設



33

これは洋上風力に対する、私どもの冒頭お見せしたフィルターユニットの適用事例でございます。

近年、洋上風力発電の実用化が活発化しております。洋上風力の着底式のような、このようなモノパイルの状態のときには、やはりこの辺が洗掘を受けます。これに対して、私どもの研究所では、洗掘防止ということで、このフィルターユニットが、有効的な手段であることを実験で確認しております。今後、風力発電における需要が見込まれるといったところでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

海外展開



- ODA（政府開発援助）案件：アフリカで2件の受注
- 韓国提携企業への次世代型ブロックのライセンス（実施許諾）付与

● ODA（政府開発援助）案件：アフリカで2件の受注



トーゴ共和国
ロメ漁港

マダガスカル共和国
トアマシナ港



● トーゴ_ロメ漁港 2017~2018年
テトラネオ 6t型 約3,300個他



● マダガスカル_トアマシナ港
2019年~ 施工中
ドロス 50t型 約3,100個他

● 韓国提携企業（NEOTECH社）と新型ブロック3種のライセンス契約を締結（2012年）しています。

● 現在までに韓国国内で14箇所の施工実績を有します。





九市浦港（GuSiPo）港
テトラネオ 12t型



良浦（YangPo）港
テトラネオ 50t型 他



西歸浦（SeoGwipo）港 ドロスII 100t型

34

あと、海外の展開についてご説明申し上げます。

私どもの事業、海外につきましては ODA の事業と、韓国におけるライセンス事業が 2 本の柱になっております。

こちらは ODA でのアフリカの事例でございます。トーゴ共和国のロメ漁港、これは 3 年ほど前に実施した案件でございますけれども、こちらでテトラネオを使っていただき、今現在、施工中でございますけれども、マダガスカル共和国のトアマシナ港、こちらにおいては、50 トン型ドロスという高波浪領域に対応するようなブロックを、約 3,500 個ほど今、製作していただいているかたちで、ODA 事業に参画しております。

一方、韓国のお話ですけれども、韓国においては 2012 年度より、ライセンス事業を展開しております。韓国における提携企業とタイアップしまして、このようなブロックを輸出していると。ライセンスで輸出していることとなりますが、現在までに、約 14 カ所の施工実績を有しております。現在も約 5 現場、進行中の現場がございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

土木・地盤・ブロック環境の3事業の研究開発を担う総合技術研究所

- 海や河川において波浪や流れに曝される構造物（主に消波ブロックや被覆ブロック）の水理安定性や水理機能に関する研究開発を行っています。
- 断面水槽は4本あり、不規則波造波装置が備え付けられ高精度な実験が可能です。



35

最後に、総合技術研究所のご紹介をいたします。

こちらは先ほどもお話ししましたように、昭和44年、1969年に開設した水理実験場。現在は3事業の総合技術研究所として、活用しております。こういった中で、4本の大型断面水槽を有しており、こういったかたちの水槽を利用して、新しいブロックの開発、水理の技術開発等々を、こちらの研究所で行っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

自然と調和しながら 港湾・漁港・海岸・河川の施設や海浜を護り、 国土強靱化に貢献します



36

私どものブロック環境事業でございます。

自然と調和をしながら港湾・漁港・海岸・河川の施設や海浜を守って、国土強靱化に貢献していきたいと。そのように考えております。

それでは、私のご説明は以上となります。

司会：奥田社長様、中西本部長様、どうもご説明ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

司会： それでは、質疑応答に入ります。

なお、この IR ミーティングは質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開する予定です。したがって、もし匿名を希望される場合は質問される際、名前を名乗らないようお願い申し上げます。

それでは、ご質問いかがでございましょうか。ありがとうございます。

質問者： よろしくお祈いします。見通しは、1Q 時の開示を据え置かれていますので、利益進捗率は少し高くなっていると思うんですけども、この辺り、下期で土木の利益率がちょっと厳しくなると見ている背景を教えてください。

あと地盤改良のところ、下期売上は、結構戻るご想定なんですけれども。利益率のところは相変わらずで。ちょっと今期は、厳しいご想定を置かれています。この辺りの背景をもう少し教えてください。

奥田： まず土木事業ですが、第 2 四半期かなり利益的には、グラフで見ただけでも分かりますように、進捗が進みました、利益面で。これは大型の工事が、上期に竣工してきた工事が設計変更等で、かなり改善をしてきたのが一番大きな要因です。

通期に関しましては、なかなか土木工事、前にもご説明したことがあるんですけども、設計変更や増額の契約等が、やはりどうしても土木の場合、工期が 4 年、5 年長くなりますので、後ろのほうにそういう結果が出てくると。

そうなりますと、下期にはなかなかそういった意味で、長期間の工事の売上として完結に終わって、設計変更も含めて上がってくる工事が少し少なくなってくるので。その面で、少し利益率が今、まだ見込めないのが現状でございます。

地盤事業ですが、地盤事業は売上の的には下期、第 3、第 4 でかなりの売上が上がってくると見通しをしています。これは第 1、第 2 四半期で、もう少し進捗が進むだろうと考えていました大型の港湾工事、特に横浜の新北牧。これは、私どもがリニューアルをしました船舶 2 隻が同時に動いてくるということで、予測をして計画しておりましたが。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

上期につきましては1隻が動いて、工事としては発注になっておるんですけども、着工が少し遅れて11月、12月ぐらいから2隻が同時に動き出すということで。少しそういった、利益率の良い海上工事の売上分が来期に、少しずれ込んだりするので、利益率的に昨年に比べると厳しいかなと。

それと、もう一つ大きいのは、やはり海外事業が今、かなり遅れております。東南アジア主体に事業展開しておりますが。大型の工事の受注、この上期に見通しをしておりましたけれども、うまく受注できて年度末かなということで。売上面でも利益面でも、今期はなかなか海外の事業が厳しいかなと思っております。

その分を国内の公共事業でということで、努力はしております。ですので、ある程度の売上数字は伸びてくると思いますが、やっぱり利益率的には少し価格競争の物件も出てきますので、厳しいかなという判断を現状しております。以上でございます。

質問者：分かりました。民間系のところは結構、受注採算が厳しくなるのではという話はいろんなところで、聞いたりするんですけども。

御社の場合は、今のところ、施工キャパのほうの問題だというお話が最初にもあったと思うんですけども。特に公共系のところは、そんなに厳しい採算のものを、無理に取りにいかなければいけない環境でもないのかなと思うのですが、受注採算とかの考え方はどう見ればいいでしょうか。

奥田：今は、土木ですと受注完工は期内完工が20から25%ということで、ほとんどが手持ち工事でも業績を組み立てますので、あまり影響はないのですが。地盤改良事業については、やはり期内の受注完工が65%を多分超えてくると思います、每期。そうしますと、その期の状況によって、受注環境が変わる。あるいは受注競争が若干変わってくるのはやはり予測しながら計画を立てなければいけないだろうと思います。

こういった、今ご指摘がありましたように公共工事については、特に中央官庁については、発注が少なくなるとか事業が止まるとかは、今のところないと考えています。ただ、地方自治体については、今後の案件についてはコロナ対策にかなり費用を使われてきておりますので、補正あるいは来年度については若干厳しいかなと。

民間については、既に事業を遅らせたり中断されている事業もあります。ですので、ご指摘のように公共工事、そんな価格競争をしなくてもいいんじゃないかというお話もあろうかと思っておりますけれども、やはり、われわれ抱えている資材と人員と、やっぱり設備を自社で持っておりますので。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ある程度の売上を、地盤事業の場合は立てるというところでは、少し価格競争をしても機械を動かすとか、船を動かす場面は今後、出てくるかも分からないと思います。今のところ、そういったところにはまだ踏み込んではいません。

質問者：分かりました。最後、次期中計の考え方について。キャパシティを少し引き上げて、売上のほうも拡大を図っていくのか、どちらかというところ採算性重視みたいな、そういう考え方でののかとか。

直近、ちょっと大量保有報告なんかを見るとファンドの保有みたいなのも出てきたので。資本効率の改善とか株主還元の強化とか、そういう方向に目線が向いたりもするのか。この辺りの考え方を教えていただけないでしょうか。

奥田：次期中計につきましては、当然、現在検討していますし、作業中ですので。すべてという、なかなか現時点で答えが出ているわけではないんですけれども。

大まかな考え方ですけれども、まず、今の中計自体が今まで当社ではなかなかしてこなかった10年スパンで成長していくための、最初の3年ということで、基盤整備に少し会社の経営も良くなってきていましたので。投資をしようということで、設備投資、研究開発、あるいは人に対する費用面。いろんな面で積極的に投資をしてきています。

新型コロナがない状況で当然、次の中計をスタートさせるならば、成長拡大の中計3カ年ということで、10年の中では位置づけをしてきていました。

当然、いろんなかたちで事業領域を広げようということもしていますし、人員も積極的に採用したり、中途採用もしてきていますので。各事業拡大を少ししたいということで、現中計をスタートしてきました。

ただ、新型コロナの影響がどこまで今後続くのか、政府サイドもなかなか予測をしかねているのを、私どもでどう判断するかということなんですけれども。民間の会社ですので、しっかり判断をしないと経営を狂わせますので、成長拡大をどこまで次の中計で謳えるかは多分、次の中計のポイントだろうと思います。

ただ、ご指摘もありましたように、採算性を落としてまで、拡大する必要はないとも考えております。ですので、あくまで得意の地盤事業、ブロック環境事業については採算性をしっかり確保して、利益を確保できる展開が必要だろうと考えています。

あと、株主の皆様への還元という意味で、総還元性向としては現状も実は50%で、この中計をスタートしまして。過去2期はほぼ50%を達成してきています。次期中計、いろんな株主様との意

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



見の交換とかもあるかも分かりませんが、この50%は維持していきたいと現状では考えています。

ただ、これはあくまでもまだ現中計、今、作業中ですので。少し希望的な観測も入るかも分かりませんが、その辺はご了解いただければと思います。

質問者：どうもありがとうございます。

司会：ありがとうございました。ほかにご質問ございますでしょうか。

質問者：ブロック事業なんですけれども、27ページで、現在少し底入れして、回復局面に入っていると示されている感じなんですけれども。

ここからの回復がどの程度まで、時期的に、期間的に5年ぐらいいけそうかなとか、10年ぐらいいがあるのかとか、めどについて教えてください。

会社さん側としては今、足元のところで結構、先ほどのビデオにもありましたけれども、関西空港等々の需要で、しばらく順調と見ていらっしゃるんですけども。そういう災害復旧のほうが結構、市場の回復のドライバーになってきている感じなのか。その下の老朽化対策の50年以上経過という、こういった部分が次、今予算で決められつつあると思うんですけども。

5年で十数兆円という、国土強靱化の次の計画の中に、こういったブロック等々も含めた、港湾の整備の話が盛り込まれそうだという動きになっているのかを教えてください。

中西：私からご回答いたします。

ブロックの市場でございますけれども、やはり災害復旧に、現在のところ助けられているところも、一面的にはございます。ただ、国土強靱化施策というところで、国が打っていらっしゃいますので。今は3年計画、それから今後、5年計画の国土強靱化施策を行いますので、ブロックの需要は今後5年間、5年間というのはあれなんですけれども、復調傾向にあるものと考えております。

また、国土交通省の港湾局さんでは、この度重なる災害によって、設計波の見直しを現在行っております。これはどういうことかといいますと、現在ある波高がかなり、過小評価されているのではないだろうかということで、全国の港湾、漁港もそうなんですけれども、波の見直しをしています。

そういったところで波が増大していきますと、当然、現在ある消波ブロックについても、重量が軽くなって、更新をしていかなければいけないと。そういったような需要が今後出てくると思われます。したがって、今後5年ぐらいいのスパンでは、ブロック需要は現在と同様に、相当数あるものだと認識しております。このご回答でよろしいでしょうか。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質問者：ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。ほかにご質問ございますでしょうか。

それでは、ご質問もないようですので、これをもちまして会社説明会を終了いたします。

奥田社長様、および不動テトラの皆様、どうも今日はありがとうございました。

皆様もご協力ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com